

富山市定例市長記者会見（令和4年4月1日）

■冒頭

市長

お疲れ様です。お忙しい中、定例記者会見にお集まりいただきありがとうございます。それでは早速始めさせていただきます。

■富山市シティプロモーション動画の「第4回日本国際観光映像祭」における受賞について

市長

本市では、これまで、都市の認知度やイメージの向上を目指して、さまざまなシティプロモーションに関する取組を実施してまいりました。

この度、その一環として、本市が令和2年度に制作したシティプロモーション動画「AMAZING TOYAMA～この地を選んだ理由～」が、第4回日本国際観光映像祭で、日本部門の「シティプロモーション」カテゴリで優秀作品賞を、国際部門の「ツーリズム デステイネーション シティズ」カテゴリで第3位を受賞いたしました。

「日本国際観光映像祭」は、国連世界観光機関が認定する世界最大の国際観光映像祭ネットワーク シーアイエフエフティー C I F F T に加盟している東アジア唯一の観光映像祭です。

世界の観光映像を日本国内で発信すること、日本の魅力を伝える観光映像を世界に広く発信することを目的に、2019年から開催されています。

本市のシティプロモーション動画が、このような映像祭で高く評価されたことは、非常に喜ばしく、光栄に思っているところであります。

この映像祭の国際部門での受賞作品は、C I F F T を通じて、世界の

8,000 以上の観光団体やジャーナリストに情報提供されることから、本市の魅力を世界の様々な国や地域の皆さんに知っていただく、大きなチャンスであると考えております。ひいては、市民のまちへの愛着や誇り、いわゆるシビックプライドの醸成に繋がるものと考えております。

受賞した動画は、本市で活躍する 5 人の営みを通して、本市の雄大な自然やそこから得られる恵みを、印象的な音と映像で表現しており、随所に現れる富山の魅力的な食や風景などが心に残る映像となっております。

本日はダイジェスト版の映像をご覧くださいますが、資料に記載の URL から、ぜひ本編を、ご覧くださいければと思います。それでは、お願いします。

※ダイジェスト版動画の再生（105 秒）

今後とも、今回受賞した動画を大いに活用するとともに、効果的なシティプロモーションに取り組み、都市の認知度やイメージのさらなる向上に努めてまいりたいと考えております。

■「富山市子育て支援 AI チャットボット」の運用開始について

市長

本市では、AI や IoT などを活用したスマートシティの構築を推進しております。

その取組の 1 つとして、子育て世帯等が、育児や仕事の合間などに気軽に利用できる「富山市子育て支援 AI チャットボット」を、本日から運用開始いたしました。

この「子育て支援 AI チャットボット」は、「子育ての悩みを相談したいが、どこに聞けばよいか分からない」という方や、「日中は忙しくて問い合わせができない」といった方など、なかなか時間が取れないような方でも、いつでも気軽に、スムーズに必要な情報を得られるよう、AI が答えるサー

ビスであります。いつでも気軽に利用していただきたいと思います。

本市の子育て支援ウェブサイトであります「育さぽとやま」や、新たに開設したLINE公式アカウント「富山市子育て支援LINE」からご利用いただけます。お手元の資料にQRコードがありますが、そちらをスマホで読み取っていただければ、すぐに入ることができます。

本システムは、AIが対話形式で自動応答するもので、24時間、365日、いつでも、どなたでも利用が可能です。

対象とする分野は、子育て支援分野全般に及びます。また、生活困窮支援分野も加えてあります。この二つが主となっておりますが、外国籍の方にもご利用いただけるよう、多言語翻訳機能を搭載しております。

サービス開始当初は、AIが勉強を始めたばかりであるため、うまく答えられない部分もあるかと思いますが、皆様からいただく質問をもとに、AIが学習をすることで、回答の精度が高まっていくということです。多くの皆さんに、このサービスを気軽にご利用いただき、子育て世帯等の身近なサポート役となるよう、AIそのものを一緒に成長させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

■ JR高山本線ブラッシュアップ高齢者向け運賃施策実証実験の開始について

市長

JR高山本線の利用促進と沿線地域の活性化に向け、本市と西日本旅客鉄道㈱が連携し、高齢者向けの割引乗車券「高山本線シニアおでかけきっぷ」を発売する実証実験を4月19日（火）から開始いたします。

本実験は、「高山本線ブラッシュアップ会議」の取組の一環として、利用促進効果や交通行動の変化等の検証を行うとともに、施策実施に係る課題を把握し、今後の取組方策を検討するものです。

新たに発売する「高山本線シニアおでかけきっぷ」は、65歳以上の方が、JR高山本線を利用してまちなかへお出かけされる際に、1乗車100円で利用できる、お得な特別企画乗車券です。

対象者は、市内にお住まいの65歳以上の方で、発売期間は、今月19日（火）から9月19日（月・祝）までの約5カ月間、販売価格は4枚綴りで400円です。

販売場所につきましては、資料に記載のとおり、JR西日本富山駅の「みどりの窓口」等であり、市内の旅行代理店の一部でも取り扱うということです。

ご利用の条件は、別紙資料の「JR高山本線時刻表」に記載のとおり、JR高山本線の富山駅から猪谷駅間の、午前9時から午後5時までの普通列車で、まちなかへのおでかけを対象としていることから、富山駅を発着地とした利用をする場合といたします。

なお、IC定期券である「おでかけ定期券」につきましては、JR高山本線にICカードシステムが導入されていないため、今回はご利用いただけませんので、ご注意くださいと思います。

このような取組は、JR線においては初めてのことであり、冒頭に申し上げました「ブラッシュアップ会議」による議論を深める中で、JR西日本様のご理解と賛同が得られたことから、まずは実証実験からスタートするという事になったものであります。

対象となる皆様には、是非、この機会にJR高山本線を利用して、まちなかへお出かけいただき、飲食や買い物、まちなかを歩いてみるなど、それぞれのライフスタイルの充実や日々の生活に役立てていただきたいと思っております。

■三成小学校及び八尾中学校の開校について

市長

本日、この両校が新たに開校いたしました。開校式が4月6日（水）に、それぞれ執り行われることになっています。

まず、皆さんご承知のとおり、水橋地区においては、5小学校と2中学校を統合し、義務教育学校とすることが決定しており、この統合に先行する形で、旧三郷小学校と旧上条小学校が一次統合し、新たに^{さんじょう}三成小学校となります。

この三成小学校の校舎は、旧三郷小学校の校舎を活用することとしております。このため、旧上条小学校の子どもたちは、三成小学校まで通うこととなりますので、両校を往復するスクールバスを運行させることで、通学に対する支援を行ってまいります。併せて、旧上条小学校の横に、新たに、スクールバスの待合所を整備いたしました。これにより、子どもたちが、天候に左右されることなく、安全、安心に通学できるものと思っております。

次に、八尾地域の旧八尾中学校と旧杉原中学校が統合し、新たに開校する「八尾中学校」についてです。

この新八尾中学校については、平成25年11月に、八尾地域の皆様から、子どもたちの教育環境をよりよくさせたいという要望をいただき、八尾コミュニティセンター南側の隣接地において、民間資金を活用したPFI手法により整備したところであります。

校舎には、八尾町三田にある本市保有の学校林から伐採した木材や八尾和紙が用いられているほか、おわらなどを練習するための郷土芸能室や、吹奏楽部の練習や外での読書などに生徒が気軽に使える屋外空間である中庭「学びのニワ」を設けております。

また、越中八尾駅から、新八尾中学校までのスクールバスを運行するほ

か、冬季間には保内地区、杉原地区へもスクールバスを運行することとし、通学に対する支援を行ってまいります。

そして、昨年 12 月の記者会見でご披露したとおり、南こうせつさん、南育代さんご夫妻、八尾町出身で本市の特別副市長である柴田理恵さんにも制作に携わっていただき、新たな校歌も完成したところであります。なお、柴田理恵さんにつきましては、八尾中学校の開校式にご出席いただけると伺っております。

これから、それぞれの学び舎で、新たな学校生活を過ごされる両校の子どもたちには、統合前の学校の歴史と伝統を受け継ぎ、大きな夢と希望を持って、学習やスポーツに励んでいただくとともに、かけがえのない青春、友情を育んでいただきたいと思います。

保護者の皆様、地域住民の皆様をはじめ、関係各位におかれましては、今後とも両校の子どもたちに対しまして、変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、この場をお借りしてよろしくお願い申し上げます。

■報告事項 1（ウクライナ避難民支援）

市長

国におきましては、人道的見地から、ウクライナからの避難民を積極的に受け入れることを表明しています。在留資格につきましても、最大 90 日間の短期滞在から、1 年間の滞在や就労が認められる特定活動への変更を認めるなど、柔軟に対応されているところであります。

本市におきましても、2 月末現在で 8 名のウクライナ国籍の方が居住されていることから、国の支援表明に合わせ、早い段階から関係部署において、受入れの準備等を進めてまいりました。

これまでに、1 つに、市の文化国際課や富山市外国人ワンストップ相談窓口での相談受付、2 つに、活用できる市営住宅のリストアップ、3 つに、3 月 8 日から市本庁舎及び各行政サービスセンター等での募金箱、計 9 箇

所の設置などを実施しております。

実際に、先月下旬には、ウクライナ出身で本市在住の方の親族の女性 1 名が、ウクライナから第三国経由により、本市に避難されてきており、入国管理局における在留資格の変更や市役所における住民登録等について、本市の職員がご本人に同行して、一連の手続きをサポートさせていただいたところであります。なお、ご家族の意向もあり、現時点ではこれ以上の情報の公表は控えさせていただきます。

現時点におきましては、今後、どれだけの方が避難されるかは不透明ではありますが、市内に在住の方のご家族をはじめ、ウクライナの方々が、本市での避難を希望された場合や、国からの要請があった場合には、東日本大震災の際にも多数の方々が富山市に來られて富山市で生活されたという本市の経験もありますから、基礎自治体としてやるべきことを迅速に、そして確実に実施できるよう、支援体制を整備してまいりたいと考えております。

国や県、関係団体と連携しながら、大変な思いをして避難された方々が本市において、安心して安全に避難生活を送っていただけるよう、支援してまいります。

■報告事項 2（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

次に、新型コロナウイルス感染症に関する現状について、ご報告させていただきます。

今年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症の第 6 波は、現在、市内においては減少傾向にあるということですが、ここ最近の市内感染者は 1 日あたり 100 人程度あるいは 100 人を超えているということでありますので、緩やかに減ってはいるものの、高止まりしていると実感しているところであります。

全国にまん延防止等重点措置が適用された地域がなくなりました。また、富山県独自の警戒レベルも、本日からステージ1に引き下げられたということでもあります。しかし、一方では感染のリバウンドという懸念もあるわけです。

市民の皆様には、引き続き、気を緩めることなく、マスクの着用や手洗い、換気の徹底など、基本的な感染予防対策をお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種状況について申し上げます。

本市でのワクチン接種状況につきましては、お手元に資料が配布してありますのでご覧いただきたいと思いますが、3回目となる追加接種を受けられた方は、3月31日現在で、163,602人、全人口に対する接種率は39.5%となっております。

このうち、65歳以上の高齢者は、101,460人、率にして82.2%と3月までに大部分の方が3回目接種を終えられており、現在は18歳から64歳までの方の接種の中心になってきているということでもあります。

本市では、1日あたり約3千人の方が接種を受けておられますので、このままのペースでいけば、概ね5月末までには、18歳以上の方への3回目接種は完了するものと考えております。

一方で、3月25日（金）に、12歳から17歳までの方に対する3回目接種が予防接種法に基づく予防接種として位置づけられたことが国から示されたところであります。

市では、3月末時点で2回目接種から6か月が経過している12歳から17歳までの方約300人に対し、本日接種券を発送いたします。

また、昨年10月中に2回目接種を受けられた方約8,600人につきましては、4月11日（月）に接種券を発送し、以降は、2回目接種から6か月が経過した方から順次発送してまいります。

接種券が届いた方から予約が可能となり、接種券に記載されている日から接種が可能となります。

なお、12歳から17歳までの方の3回目接種には、ファイザー社製ワク

チンのみが使用できることとされておりますので、予約の際は、お間違いのないよう、注意していただきたいと思ひます。

また、3月25日（金）に、国から4回目の接種について接種体制を確保するよう通知がありました。4回目の接種の実施や開始時期等につきましては、引き続き国のワクチン分科会で審議されることとなりますが、本市におきましても、国の動向を注視しながら、来るべき実施に向け、しっかりと遅滞なく実行できるように準備を進めてまいりたいと考えております。

■ 質疑応答

記者

隣の石川県で3月に知事選と金沢市長選が行われ、新たな知事、市長が選ばれました。両選挙結果の受け止めと、新たな知事、市長に対する印象や期待、また、金沢市との連携、協力について、考えておられることがあれば、お聞かせください。

市長

まず当選されました馳石川県知事、そして村山金沢市長には、心からお祝いを申し上げたいと思ひます。

選挙の受けとめですが、保守分裂選挙、特に知事選挙は（保守分裂が）激しかったわけですが、当落を別として、立候補された方それぞれに大変なご苦勞があったのではないかと感じております。立候補された方々には、心から敬意を表したいと思ひますし、当選された（石川県）知事、金沢市長には、これからも富山県そして富山市と連携を密にとって、お互いに政策を進めていけたらと感じております。

特に、先ごろから福井、富山、石川と知事選挙もございましたし、3県の連携は、北陸新幹線の開業ということもあり、これから先を見据えた（北陸新幹線の）大阪までの早期完成という一つの大きな目標に向かって進んでいるところであります。そのような面で言うと、知事間の連携、あるいは、その県都の市長の連携が非常に（よく）取れていると思ひますし、こ

れからもしっかりと連携してまいりたいという思いです。

また、お隣の金沢市は、経済的にも、生活圏という意味でも、非常に近いです。加えて観光の面でも、富山を観光されて金沢を観光される、あるいはその逆もまたあり得ます。(これは)北陸3県でも言えることですが、このような広域観光はこれから非常に大事になってきますので、富山市としては、いかにしてその滞在時間を延ばしていただくかということが観光(政策)の中の一つの課題であります。このような面では、金沢市は先輩であり、成功しておられる事例です。能登もそうですが、滞在型の観光(施策)では先進地となっておりますので、ご協力やご指導もいただきながら、スクラムを組んで広域観光というものを進めてまいりたいと思います。

経済的な繋がりについては、いろいろな上場企業の支社や支店がお互い(富山市と金沢市)にあったり、金沢が本社の会社が富山に支社を持っている、富山が本社の会社が金沢に支社を持っているというように、ある意味、経済圏が一緒ですので、経済のやりとりがスムーズになっていくよう、金沢市や石川県、富山県ともスクラムを組んでやっていきたいと感じております。

記者

先ほどのウクライナ避難民の受け入れについてですが、改めてその経緯と、受け入れ先など、答えられる範囲でお願いします。

市長

先ほど発表した(内容)以外は、ご親族の方から公表を控えてほしいと聞いておりますので、(ご理解のほど)よろしくをお願いします。

記者

高山線はコンパクトシティ(政策)に不可欠な路線だと思っておりますが、新型コロナの影響もあり、利用者が減少しているように思います。

将来的には、JRがバスへの転換を検討することも否定できない中、高山線の現状に対する認識と今回の100円きっぷ(高山本線シニアおでかけ

きっぷ)を含めてどのように活性化していきたいか、市長の考えをお聞かせください。

市長

新型コロナ(ウイルス感染症)の影響もあり、(コロナ禍の)前までは富山市が増便運行に支援を行いながら、利用者数が伸びていましたが、コロナ禍により、2年間(利用者数の)落ち込みが激しいということは事実です。

しかし、このモータリゼーションの中、車社会というのは否定できないので、このような中で公共交通をどう活性化していくかということが一つの課題であると思っています。

例えば、越中八尾駅を見た場合、今回、パークアンドライドの駐車場も整備させていただきましたが、越中八尾駅にアクセスするコミュニティバスなどの地域交通をいかに整備すれば、高山線の利用度が高まっていくかということも含めて、今回の実証実験の中に盛り込んでいきたいと考えているわけです。つまり、このような富山駅まで1乗車100円というインセンティブの中で、高山線を利用していただけの方々が出たこの状況の中に一体全体(どのくらいの)潜在能力があるのかということ(を知ること)が大事だと思います。その他の(高山線沿線の)駅へのアクセスを今後どう考えていくのかも含めて議論できるよう、様々なデータを収集して行きたいと思っています。

加えて、このJR高山本線ブラッシュアップ事業だけではなく、AIカメラを主要な駅に設置することで、人流や(利用)時間帯などを計測する、あるいは男女や年代までわかると思いますので、そういうもの(データ)を分析する中で、どうすれば(普段利用している方に)もっと利用していただけるか、あるいは、そういう方々以外の方にもっと利用していただくにはどうしたらいいかというようなことも、(データを)計測する中で分析していきたいと考えています。たくさん乗っていただければ実験のデータとしては良いものになるのですが、しっかりデータを収集し、今後に活かしていきたいと思っています。

=====

記者

八尾のおわら（風の盆）について、（今年度の）開催に向けて検討が進められていますが、コロナ禍ということもあり、非常に大変な思いをされていると聞いています。

こうした中、富山市としてどのような協力ができるのか、今後どのようなことを考えておられるのか、教えてください。

市長

コロナのまん延防止（等重点措置適用）の影響により途中で中止になりましたが、昨年度の事業で、子どもたちを中心にしたこの（おわらの）文化やおわら踊り、歌の継承ということで、各町内の方々がおわらを披露しておわらを伝承していくという事業をやってまいりました。このようなことが一つの大事なサポートではないかと思っています。

今年は、おわらの実行委員会や観光協会、各町内会が協力し、コロナ禍の中でどのように感染防止をしながら、おわらを開催するのか検討を進められています。しっかりマニュアル化して、それを元に開催するという方向で進められておりますので、そこに対してサポートしてまいりたいと考えております。2年休まれた（開催が中止となった）わけでありますので、3年ぶりに開催ということになれば、行政としてもしっかりサポートしなければならぬ部分が出てくるのではないかと思いますので、これから実行委員会や観光協会と会議を重ねる中で吟味していきたいと思っています。いずれにしても、しっかりとサポートさせていただきたいと思っています。

=====

記者

富山駅前の活性化について、新しい動きが見えてきたように思っています。一方で、新しいということもあり、MAROOT（マルート）の駐車場出口と西口交通広場の乗降場が供用道路のようになっており、渋滞などが見られます。このことについて、市としてどのように影響を把握しておられるのか、今後何か考えていることがあれば教えてください。

市長

過日、MAROOT（マルート）が開業してからそのような声を非常に多く聞きます。本市といたしましても、それは一つの大きな課題だと捉えており、すでに担当者に（対して）、解消に向けた関係者との協議を進めるように指示しており、現在、協議中であります。私も2回ほど、この場所で車に乗ってなかなか出られなかったという経験がありますので、何とかしなければならぬと思っています。

ちょうど同じようなことが、グランドプラザが開業した時にもありました。その（グランドプラザ）近辺で駐車場に入れられない、出られない、あるいは通行できないという大渋滞をしばらく起こしていました。そのときの経験を踏まえ、現在、協議中ですので、関係者と一緒に取り組んでまいりたいと思っています。

具体的には MAROOT（マルート）さんや信号に関しては警察、本市の交通政策関係（部署）などで、しっかりと打ち合わせして進めてまいりたいと思っています。

=====

記者

先般、北陸銀行さんが本店を駅前の方に移転されるということで、ニュースになっていましたが、そういう意味では、中央通りのあたりがまた少し寂しくなるような思いもあります。このことに関して市長はどのように感じておられるか教えてください。

市長

（移転については）北陸銀行さんからも直接お聞きしましたが、本店の跡地については、まだ具体的なものを示される予定はないということでした。（移転される）駅北エリアというのは、これから民間の方々の手によって、賑やかなエリアになっていくものと思っています。

一方で、今おっしゃった中央通り地域は現在も少し寂しい状況になっています。（活性化の）一つとしては、中央通りD北地区の再開発が、現在、

進行中でありますので、今はそれに全力投球していきたいと思っています。

北陸銀行さんの（本店の）移転までは、しばらく（時間が）ありますので、中心市街地でもあるそのエリアをどのように活性化させていけばいいのか、しっかり考えていきたいと思えます。

いずれにしても、中心市街地のそのエリア（中央通り地域の活性化）については、大きな問題であると認識をしております。

記者

今日、北口の駅前広場も供用開始されました。駅前広場が広くなり、ロータリーが綺麗になってスペースが供用されましたが、ここに、どのような役割や効果を期待しておられるのかお聞かせください。

市長

今までどちらかというと駅の南側に華やかに人が滞留し賑わっているというようなイメージがありましたが、実を言いますと、駅の北側にもたくさん会社や企業が立地しており、オーバードホールや体育館などもあるため、かなりの人流があるわけです。今までは素通りして、ただ駅へ直行されていたということでありましたが、北口駅前広場ができることによって、そこで様々なイベントを開催したり、ベンチ等も含めてちょっと休むスペースなどを設けることによって、（皆さんに）滞留していただくということも可能となります。ですから、南側と同様に、（北側も）駅前広場として市民の方々や企業の方に使っていただければいいと思っています。

加えて、ブルバールの整備を3年かけて行うことにしていますので、ブルバールとの関連イベントなどにも使えることから、北口駅前広場においても大いに賑わいを期待しております。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課